



研究部会報告

● コンピューテーション ●

・第5回

日時：2月28日(水) 15:00~17:30

出席者：13名

場所：京都大学工学部8号館共同第6講義室

テーマと講師：

(1)「無交差ラーマンングラフの列挙」

谷川眞一 (京都大学工学研究科建築学専攻)

概要：ラーマンングラフ全体はマトロイド構造を有するが、無交差ラーマンングラフ全体にはそのような性質はない。しかし本講演では、辺のフリップを上手く定義することによって、逆探索法による列挙ができることを示した。また、数値実験の結果について報告があった。

(2)「頻出集合発見問題に対するアルゴリズム技術」

宇野毅明

(国立情報学研究所・総合研究大学院大学)

概要：まず列挙アルゴリズムの研究について、幅広いサーベイ的な説明を行った。続いて、頻出集合発見問題を取り上げた。素朴なアルゴリズムは実用的ではなく、高速化の方法が提案された。このプログラムは最優秀インプリメント賞を受賞し、その詳細な結果報告があった。

● ゲーム理論と経済理工学 ●

・第10回

日時：3月13日(金) 16:00~17:30

出席者：25名

場所：東京工業大学大岡山キャンパス
西9号館607号室

テーマと講師：

「Between freedom and enforcement: public goods and costly punishment」

Karl Sigmund

(Faculty for Mathematics, University of Vienna)

概要：公共財問題などの共同事業において、貢献度の低い参加者に対する懲罰行動が、参加者の貢献度

を高く保つ役割を持つことが知られている。この懲罰行動がどのように発生するかに焦点を当てた研究について発表があった。共同事業に参加するか否かを任意に選べる状態が、懲罰行動を助長していることが示された。

会合記録

3月14日(月)	機関誌編集委員会	7名
3月28日(水)	研究普及委員会	14名
	論文誌編集委員会	17名